

1. 事業名称 世代間交流の場・トキ塾
2. 実施主体
 - 団体名： 常盤平地域活性隊
 - 事業担当課： 常盤平支所
3. 取り組もうとする課題（テーマ）と事業

常盤平地域活性隊（提案者）では、地域住民交流の場として、平成19年3月以来、音楽とアートを中心に各種イベント「トキサイ」を開催してきておりますが、「トキサイ」の一事業として、このたび、住民参加型の学習塾「トキ塾」を立ち上げ、地域活性化をより一層推進することとします。

コミュニケーション不足が叫ばれている現代社会では高齢者に限らず若者も生きがいを持って生活することが最重要課題です。

これら「生きがい」をテーマに取り扱う、団体、組織、各種趣味講座や生涯学習講座など数多くありますが、今回、提案の「トキ塾」は、単なる特定の人たちや、同じ年齢層の集まりで構成され、一方向的に行う啓発講座とは一線を画したものと考えています。

世代間の交流も含め、できるだけ多くの住民が、いつでも好きな時に気楽に参加でき、講師と参加者および参加者同士が、学びながら双方向的にコミュニケーションをはかれる機会と場所を提供したいとの思いから、本事業を提案いたしました。

「トキ塾」の参加型学習を通じて、地元町内会、自治会、地域団体及び行政と、交流の場をさらに広げていき、住民同士が、必要な時に、いつでも、誰とでも、気軽に声を掛け合える、笑顔で挨拶ができる、そんなコミュニケーションのとれる風通しの良い地域づくりの一助になるようにいたします。

4. 事業目的と成果目標

世代間交流の場・トキ塾を実施することにより地域の人々が楽しく会話ができ、この街が楽しい街だと感じられるようにする。その結果、地域の再生が行われることが目的です。

具体的数値評価としては、各講座の参加者が各回30名以上、参加者に簡単なアンケートを取り50%以上の参加者から楽しいとの評価と、また参加したい要望を得ること

5. 協働の意義

現在、提案者の進める地域住民コミュニケーションの場としての「トキサイ」を、さらに一步進め、「トキ塾」を通して、交流の場を地元町内会、自治会、他地域団体と横へ広げていくには、市との協働事業による信用力、広報力及び活動を軌道に乗せるための初期費用の支援が必要不可欠です。

更に、「トキ塾」を通じて、隣人・世代間・団体間・地域間と徐々に交流の場を深めていくことは、行政の目指す地域活性化の趣旨にも合致し、かつ、事業を通じて得られる住民の要望や課題についても情報の共有が可能となり意義あるものと考えます。

6. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

- テーマの企画・実施・結果整理、講師の選定
- 各種広報活動と参加者募集
- 事業やアンケート調査などを通じて得た、住民の要望や志向の把握とフィードバック

■ 市の担当課の役割

- 広報活動への協力
- 講座会場確保の支援
- 経費支援
- 町内会・自治会などとの交流活動の支援

7. 事業の具体的なスケジュール

単純に講師がいて聴衆がいるという講義ではなく、たとえば子供から高齢者まで参加できる人形作り講座を企画しその次の講座では、その人形を、いかに綺麗に撮影するかをテーマにした写真講座を企画する。次に常盤平地域活性隊が主宰する「トキサイ」でその人形と写真を展示するというように各講座は参加型でかつ次の講座とも関連するように工夫していく。誰もが気軽に参加できて楽しい講座を企画する。講座に参加する人達が手をつなげるような「塾」を実施するのが目標です。

まずは初年度ですので第一四半期は調査と広報を兼ねて町会・自治会等の地域団体を回り広報関係の協力を要請する。具体的には3カ月に1回程度の回覧をお願いする。町会の掲示板使用の願もする。第二四半期は月に1回のペースで講座を開設し我々が目指す「塾」が実現に関し実習する。第三四半期は第一四半期で集めた地域団体の意見を反映させた講座を月に2回のペースで開催する。第四四半期も月二回のペースにして講座を開催する。

近隣の大学にこの企画に関して有効性等を多角的に調査研究していただけたところがないか調べたいと考えています。

事業スケジュール

	22年4月～6月	7月～9月	10月～12月	23年1月～3月
運営会議	24回(月2回)			
体制作り	地域団体を回る			
講座		3回	6回	6回

7月はスーパー紙トンボの会に講師をお願いして講座名「昔の遊び」を実施する。

8月は講座名「植物ウォッチング」を実施する。(講師は未定)

9月は講座名「囲碁・将棋」を実施する。(講師は未定)

10月から翌年3月までは地域団体等の要望を取り入れた講座を月二回実施する。

トキ塾の開催場所については現在空き店舗となっている常盤平団地中央商店街松坂屋ストア別棟の一部を借用したいと考えています。借用できない場合は常盤平市民センターの会議室を使用させていただく予定です。

8. 将来の展開

初年度については、前述の通り、地域の各団体との交流を通して今後の体制づくり、事業運営参加者の教育、パイロット的な講座開催などを行い、徐々に内容の充実を図っていきますが、将来的には、協働事業終了後も独自で効率的な事業運営と自己資金が確保できる体制の下で、地域住民のコミュニケーションの場としての利用価値を高めるべく、継続的な努力と活動を推進していく予定です。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

提案者	（自己資金）	金額	積算内訳
	参加料	45,000	30人×15回×100円（材料費等平均）
活性隊年会費より	5,000		
	自己資金合計（a）	50,000	
	労力換算額計（b）	257,000	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	214,750	
	資金合計額（d）（a+c）	264,750	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

項目		金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	町会への説明資料	2,500	50部×10頁×5円
	講座資料作成15回	11,250	30部×5頁×15回×5円
	講座講師謝礼15回	150,000	1人×15回×10,000円
	実践講座会場費借料（無料）	0	(420円×3h+250円)×12回=18,120 協働事業でないで発生する費用
	広報用チラシ作製（回覧）	45,000	4,500枚×2回×5円（10月、1月）
	ポスター作製費（掲示板用）	6,000	50枚×3回×40円（3か月毎）
	会場用看板材料費	6,000	3枚×2,000円（横1枚、縦2枚）
	消耗品	22,000	1式（看板用紙3×15回を含む）
	対象となる経費合計額（e）	242,750	
その他経費	スタッフ通信交通費	10,000	5人×2,000円
	会議費用	12,000	5人×24回×100円
	その他経費合計額（f）	22,000	
	事業費（g）（e+f）	264,750	収入合計額（d）と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	運営会議（月2回）	120,000円	5人×2h×24回×500円
	町会への説明会	80,000円	2人×2h×10団体×4回×500円
	チラシ作製（回覧分）	12,000円	2人×4h×3回×500円
	講座の運営	45,000円	2人×3h×15回×500円
	合計（b）	257,000円	